

- ScholarOne サポートセンター FAQ
- 【サービス紹介】世界トップクラスの研究者へメールを配信 Web of Science® Author Connect
- 学術界の名寄せ問題を解消する為に「ORCID」～ S1Mと連携させるメリット

## FAQ ScholarOne サポートセンター

日頃より杏林舎のScholarOneサポートセンターには、システムの操作方法やトラブル時のご相談など、様々なお問い合わせが寄せられています。今回は、最近よくいただいているお問い合わせの中からいくつか取り上げてご紹介いたします。

Q

論文が採用になって、制作チェックを完了しました。制作会社に原稿データもCDで渡したので、論文はそのまま放っておけば良いのでしょうか？

A

そのまま放置されてもシステムに悪影響を与えることはありませんが、フローは完了しておりませんので、その分のデータ容量がシステム内に蓄積され、総容量が1GBを超過すると月ごとのご請求が発生します。特に保留する理由がない限りは、制作チェック完了後はデータ保存料を軽減するために「Batch」の実行を行ってください。



<Batch指定画面>  
「選択」のプルダウンメニューから入稿用のBatchを選択して「アサイン」をクリックしてください。24時間以内にBatchが実行されます。

Q

査読者より「査読結果を提出したのにリマインダーメールが届きました。」と問い合わせがありました。正しく提出されているようですが、なぜ送信されたのでしょうか？

A

リマインダーメールは、提出期限日になると事前に送信サーバに予約登録されます。一度予約登録されたEメールは査読を提出されても予約が解除されずEメールが送信されてしまいます。リマインダーメールのテンプレートに「本メールが行き違いとなり、すでにご提出いただいている場合はご容赦ください。」等の文章を追記してご対応いただけますようお願いいたします。

Q

論文が投稿されて、現在は事務局ダッシュボードの「投稿受付」に入っているのですが、論文IDが付いていないものがあります…。

A

著者が投稿完了後にブラウザの「戻る」ボタンを押されたことが原因で、システムが誤作動し、その論文が不安定な状態となっています。この場合、弊社サポートセンターでの修復ができないため、開発元へ修復を依頼することとなります。システムご利用時はすべての操作において、ブラウザの「戻る」ボタンは絶対に使用しないようご注意ください。

Q

著者から「修正論文の提出期限は今日までのはずなのに、投稿画面へアクセスしたら「期限切れ」と表示されて投稿ができません。」とされました。何時に期限切れになるのでしょうか？

A

S1Mのシステムは、開発元であるThomson Reutersの米国東部時間 (EST) による仕様で設計されているため、日本時間 (JST) でご利用の場合には時差により14:00 (夏時間: EDTが適用されている時期は13:00) に期限切れとなります。審査結果通知Eメールのテンプレートに、「12時 (正午) までにご提出ください。」という文を追加してご対応いただけますようお願いいたします。



Q

ログインができません…。

A

- 以下のケースがございます。
- 1. ID、パスワードの勘違い。**  
例: 学会の会員サイトで使用しているID、パスワードを入力していた。
  - 2. サイト内に複数のユーザーアカウントが作成されている。**  
例: 査読依頼を受けたアカウントとは別のアカウントでログインしたため、査読論文が画面上に見つからなかった。
  - 3. 「ユーザーID」と「Eメールアドレス」に異なるEメールアドレスが登録されている。**  
「ユーザーID」にEメールアドレスが登録されているケースでは、ユーザー本人がユーザーアカウント編集画面でEメールアドレスの登録を変更した場合は、ユーザーIDも自動的に同じEメールアドレスに変更されますが、事務局がユーザー検索の画面から変更をおこなった場合には、ユーザーIDは自動的に変更されませんのでユーザーIDの変更も必要となります。※本人操作時でユーザーIDが自動的に変更されるのはEメールアドレスを入力されている場合のみとなります。
  - 4. 初めてログインした際に、ユーザーアカウント編集画面に移動させられた。**  
編集委員が査読者としてユーザーアカウントを新規作成された際によくあるケースです。初めてログインした際には、ユーザーの所属名等の必須項目が空欄になっていると、査読作業をする前にユーザーアカウント情報の編集画面へ移動し、項目の入力を行っていただく必要があります。
  - 5. Eメール文中に記載されているサイトURLのリンク末尾にピリオドが含まれている。**  
ピリオドを含んでURLが認識されるため、S1Mサイトにアクセスできません。※メールソフトの仕様により、末尾のピリオドがリンクに含まれる場合があります。
  - 6. User Permissions & Roles の設定**  
ユーザーアカウントの個別設定で、以前に特定のユーザーに対してサイトへのアクセス制限の設定を変更し、そのままの状態となっていることがあります。(Inactiveなどの設定)



Q

投稿画面で共著者を登録することができません。どうすればいいですか？

A

著者のユーザーアカウントが頻繁に重複して作成されてしまう問題を解消するために、昨年12月のバージョンアップで、共著者登録の操作方法が変更されました。E-mailアドレスを検索し共著者のユーザーアカウントの有無を確認してから登録を行っていただけます。問い合わせ件数が多かったため、すべてのサイトの投稿画面上部に操作手順を記載しました。



<投稿時の共著者登録画面>

## サービス紹介 世界トップクラスの研究者へメールを配信 Web of Science® Author Connect

### パンフレットを同封しています!

サービスの詳細やお問い合わせにつきましては、同封のパンフレットをご覧ください



学術研究の国際化については様々な取り組みをされているかと思われそうですが、対象が世界となるとなかなか思うようなアピールができていないというのが正直なところではないでしょうか。杏林舎では学協会様の国際化をサポートするサービスをご用意していますが、今回ご紹介するのは他に類を見ないメール配信サービ

ス「Web of Science Author Connect」です。トムソン・ロイターが提供するメール配信サービスで、インパクトファクターでお馴染みのWeb of Scienceに著者として掲載されている世界トップクラスの研究者の中から、貴学協会の研究に関連する「カテゴリー」「ジャーナル名」「国名」で絞り込んで抽出された研究者へ貴学協会の

オリジナルメールを配信、その結果をレポートするサービスです。今年(平成28年度)は「国際情報発信力の強化」という科研費の公募があり、いくつかの学協会様はこれを利用してあります。今後もそのような助成金と併せてご検討されてはいかがでしょうか。

学術界の名寄せ問題を解消する為に

# ORCID



## 第2回 S1Mと連携させるメリット

ユーザーカンファレンスやS1M NEWS、メール配信などを通じてORCIDについてご案内したところ、すぐにS1Mとの連携をご希望された学協会様がいる一方で、「S1MサイトでORCIDを利用するメリットは？」というご質問も複数の学協会様から頂きました。確かに論文の投稿・査読という点から考えると、ORCIDのメリットは見えにくいかもしれませんが、そこで今回はORCIDによる名寄せの仕組みを解説し、S1Mと連携させるメリットを考えていきます。

### ORCIDレコードとORCID iD

ORCIDが集める研究者の情報（ORCIDレコード）は次の3つの要素から構成されます。

- ① ORCID iD (16ケタの数字からなる研究者識別子)
- ② 研究者のプロフィール情報(名前、連絡先、所属先など)
- ③ 研究成果の情報(論文、書籍、研究データなど)

このようにORCIDのデータベースでは研究者の個人情報やORCID iDに紐付けられて管理されています。このため会員番号を使って名簿から研究者情報を確認すると同様、ORCIDと連携したシステムやサービスはORCID iDを使って研究者のレコードを参照することができるのです。

### 名寄せの精度を確保する：レコード更新の仕組み

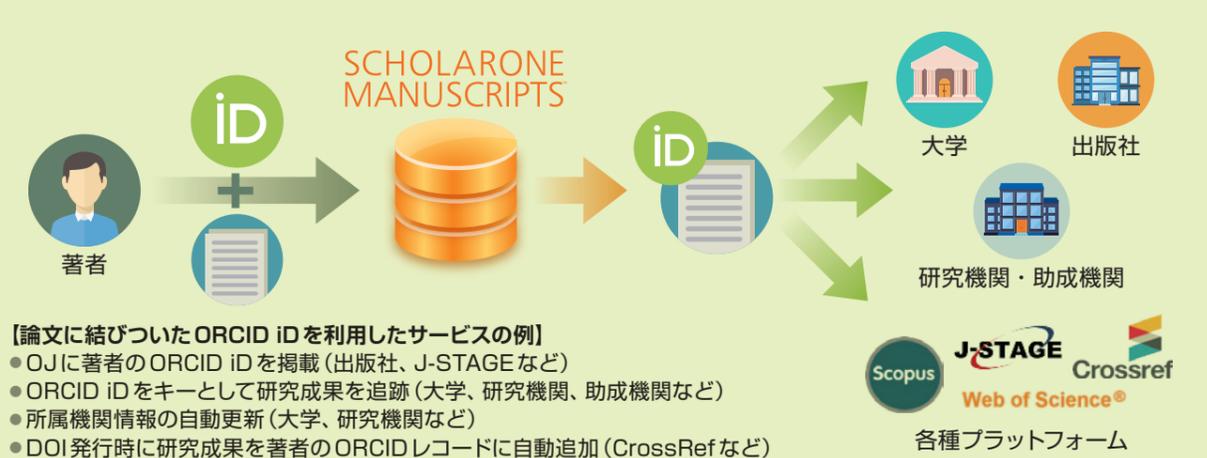
データベースを運用・管理する上で、情報をなるべく正確かつ最新に保つことは大変重要です。そこでORCIDは研究者自身とORCID Member機関の両方がレコードを更新

できるようにしています。ORCIDレコードの作成は原則的に本人が行いますので、登録時点では最新かつ正確な情報が登録されています。次に研究者が様々なシステムやサービスでORCID iDを提示することで、研究活動がORCID iDに結び付けられます。このORCID iDをもとにORCID Member 機関(CrossRefなど)が研究者のレコードを更新します。また、ORCID iDと結び付けが行われていない過去の研究成果についても研究者がわずかなクリックでレコードに登録できるサービスがあります。このように研究者、ORCID Member機関の両方が情報を更新していくことで、正確な名寄せが可能となります。

### S1Mと連携させるメリット：研究者と成果の紐付け

S1MとORCIDを連携させると、ユーザーアカウントとORCIDレコードがORCID iDによって結び付けられるため、研究者の同定が簡単に行えるようになります。結果として重複アカウントの作成防止や査読者候補の実績確認が行いやすくなるといったメリットがあります。また著者のアカウントにORCID iDが登録されていた場合、S1Mは論文の書誌情報に著者のORCID iDを取り込みます。論文と紐付けられたORCID iDは、例えば著者のORCID iDをオンラインジャーナルに掲載するサービス(J-STAGEなど)や、掲載情報を著者のORCIDレコードに自動追加するサービス(CrossRef)など、様々な場面で利用されます。つまり論文とORCID iDを紐づけることで多くの機関が機械的に研究者の同定とレコードの更新ができるようになり、結果として学術情報の流通がスムーズになることもS1MがORCIDと連携する大きなメリットと言えます。ORCIDとの連携は一度設定してしまえば事務局側で特別な操作は必要ありませんし、Public APIであれば無料で設定可能です。もしご興味があれば、お気軽に杏林舎までお問い合わせください。

### S1Mで論文とORCID iDの紐付けを行うと、様々なサービスで活用できるようになります



## 「ScholarOne Manuscripts User Conference」に参加しました！

S1Mの開発元であるThomson Reutersが世界中のS1M利用学協会・出版社・販売代理店に向けて毎年開催している「ScholarOne Manuscripts User Conference」が、4月27～28日にアメリカのテネシー州・ナッシュビルで開催され、弊社からも2名が参加しました。例年通り、システムのアップデート情報やロードマップの発表があり、いくつかの講演がありましたが、今回は論文の審査情報を有効に活用してジャーナルの

インパクトをいかに高めていくかということが全体的なテーマとなっていました。前日と最終日には、弊社向けに特別にORCID、E-Commerce、Overleafなどオプション機能の仕組みや事例などについてのレクチャーが行われました。また、日本語表記についての要望も伝えることができ、実りの多い滞りとなりました。カンファレンスの詳細レポートは次号のS1M NEWSに掲載しますので、楽しみにお待ちください！

### 編集後記

今号は、FAQ形式で杏林舎のScholarOneサポートセンターへのお問い合わせをご紹介しました。S1Mは、マニュアルを見なくても操作ができることを目指して設計されていますが、細かい機能等につきましては、直感的にはわからない点がありますので、最近寄せられた中で特に多かった内容を取り上げました。すでに回答をご存知の方もいらっしゃると思いますが、お手元に置かれて日々の業務において折に触れてご参照いただければ幸いです。なお、先に行われました本国でのS1Mユーザーカンファレンスでも操作性に関する改善が多く予定されているとの発表がありました。来月に予定されているバージョンアップではメインメニューとダッシュボードのインターフェースが大きく変更される予定です。更に進化するS1Mにご期待ください。

## S1M NEWS

2016年5月2日発行 第10号

発行 株式会社 杏林舎  
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10  
TEL. 03-3910-4311  
FAX. 03-3949-0230  
URL http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎  
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp

©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

## “？”アイコンで 投稿をサポート

事務局アカウントで投稿画面を確認すると、TitleやAbstractといった項目の近くに『？』アイコンと“Edit”が表示されますが、実はこれ、投稿者のアカウントでは表示されていません。これは、各項目に事務局からのコメントを追加することで、投稿者をサポートできる機能なんです。



Title：見出し  
Content：説明文  
Learn More：詳細な説明を載せたWebページへのURLを設定

- ① 事務局権限を持つアカウントでログインし、投稿画面を開きます。
- ② 各項目名の右隣にある“Edit”をクリックします。
- ③ コメントの編集画面が開きます。Title、Content、Learn Moreと3種類の入力欄がありますので適宜文章を入力して“Save”をクリックして変更を保存します。
- ④ 設定後、著者の投稿画面に『？』アイコンが表示されるようになり、このアイコンをクリックするとコメントが確認できます。

こんにちは！ 学術ソリューション課の山田です。今回は投稿をサポートする「コメント機能」を紹介しました。例えば要旨やタイトルの文字数など、投稿規程に沿ったコメントを設定しておく効果的です！

